

第1回 笠岡市新病院建設事業に係る再検討会議 会議概要

日 時：令和8年1月13日（火）19：00～20：40

場 所：笠岡市役所3階第1会議室

出席者：委 員 8人

笠岡市 市長、副市長、総務部長、こども・健康福祉部長

事務局 市民病院 病院事業管理者兼院長、管理局長、看護部長 外5名

オブザーバー 医療総研株式会社 1名

傍聴者 笠岡市議会議員 1名

岡山県職員 1名

福山市民病院職員 1名

笠岡市職員等（市民病院職員含む） 8名

1 開会

2 委嘱状交付

3 市長あいさつ

- 新病院の建設について、実施設計を進めていたが、昨年度末から経営が急激に悪化したことなどもあり、再検討が必要であると判断した。
- 本市の医療に深くかかわる皆様に、本市と市民病院の在り方について、議論していただきたい。
- ご考慮いただきたい点として、福山市民病院との連携を今後どのように維持し、発展させていくのかも論点になる。
- 皆様から意見を賜り、最終的に設置者である市長が判断し、決定する。

4 委員紹介

5 委員長・副委員長選出

委員長：則安俊昭（岡山県保健医療統括監）

副委員長：谷口正人（笠岡医師会長）

6 議事

（1）今後の進め方について ※資料1

（2）市民病院の現状について ※資料2、資料3

（3）新地域医療構想について ※資料4

（4）意見交換

- 岡山大学病院から、医師を派遣することが非常に困難になっている。
- 人口も患者も減り、ベッドも空いている状況で、病院を集約化や統合しようという動きがある。市内3つの病院が同じような機能で非常に効率が悪いので、足りない部分を笠岡市民病院が担えばよい。
- 消防の意見として遠方まで運ぶことは患者にとっても消防機関にとっても負担は大きい。
- 看取りも含めて、介護系の医療ニーズの高い方の施設が不足している。
- 我々の病院は働き方改革により、病床に余力は無い。

- ・段々患者数が少なくなっているのは事実。
- ・市民病院が無くても皆でカバーすれば埋められるのではないか。
- ・本当に重症な方は圏域外に迷わずに行っていただく。ただし、軽症な方は地域の医療機関での受入が強く望まれている。
- ・笠岡では介護施設で看取りが行われている。医療を受けずに亡くなることが変われば、必然的に入院需要が上がる。
- ・昨今、近隣の高度急性期病院からの下り搬送が増えているので、必要な病床数も当然変わってくる。
- ・笠岡、井原から福山市民病院への救急搬送は、重症で医療資源の投与が必要な方が送られてくるが、最近の傾向を見ると、高齢者救急がすごく増えている。円滑に下り搬送を行うためにも地域の医療機関が無いと困る。
- ・医療のニーズ自体は減っているが、急性期を過ぎた回復期や高齢者救急を地域の医療機関で受け入れることが必要。
- ・市内の交通インフラはかなり悪化しているため、近くの病院というニーズはある。
- ・他病院と協力して救急を担うという議論が必要。
- ・各病院がCTやMRI、検査機器の共用化などの検討も必要。

(5) 今後の方向性（説明：谷本管理者）

- ・いただいた意見等を踏まえ、次回検討会議において、提案を出せるようにしたい。

7 閉会